
I believe

平和鳩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I believe

【コード】

N4718I

【作者名】

平和鳩

【あらすじ】

占いから動き出す学生の恋物語

朝、ぼーっとTVを見ているとたまたまどこかの番組の占いが放送されているのが目に入った。

「今日のさそり座の方の運勢はおおむね良好です。が、大切な友達を失ってしまうかもしれません。」と、どこかのアナウンサーが言っている。ちなみに俺はさそり座。最悪だ・・・、しかも友達失うかもしれないと言っておいて運勢が良いわけないだろ。だいたい、全国のさそり座の方が友達を失いそうになる場面に遭遇したら、それはちよつとした怪奇現象なのだが・・・まあ、そんなことを言うとか占いを全否定することになるので心の中だけでツツコンでおく。こんな占い気にしなければいいのだがついつい思い出してしまふ。そんな低いテンションのまま俺は学校に行くために家を出た。家を出てすぐ、後ろから肩をたたかれ、俺は後ろを振り向く

「おはよう、あれ、どした？なんかつかない顔してるね。朝からそんなんじゃないよ一日もたないよ！」

異様に高いテンションで喋りかけてきたこいつは、柴田美穂、俺の幼馴染だ。ちよつとアホだが、基本いい奴で、顔もまあ一般の「カワイイ」部類に入ると思う。

「聞いているの？ほらテンションあげて！」

「ああ、聞いているよ。」

適当に返答しておく。しかし、こいつは朝からなんでこんなテンション高いんだ？

「どうした？どうした？何かあったの？」

「いや、朝の星座占いの結果があんまし良くなかったんで若干落ち込み気味だ。」

「そんなこと？占いなんかいちいち気にしてたら人生つままないよ！」

くっ、簡単に言ってくれる。気にせずいられたらこんな気分には

なっていないだろう

「じゃあ、私が幸福オーラーを分けてあげる！」

そう言っつて、美穂はかめ〇め波でも撃つのかといわんばかりに俺に「何か」を送ろうと手を動かしている。それで幸福になるなら毎日送ってもらいたいものだ。

「だーめ、これは私が上機嫌の時しか無理なの」

と言っつたので、何故機嫌がいいのか聞いてみると占いで結果がよかつたからということだつた。

おーい、占いを気にするなと言っつていた本人がおもいつきし占いを気にしてるじゃないか。とツツコもうと思つたが、やめておいた。

下手に逆撫でして「友達」を失うのも嫌だしな。占いを気にしすぎかもしれないが・・・

その後はどうでもいい話をして学校まで向かつた。しかし、今日の美穂はいつもより異常にテンションが高い。そんなに占いの結果がよかつたことが嬉しかつたのだろうか？

放課後、占いを気にして損した。今日も普通に友達と駄弁つて、授業で眠気と格闘し、部活も終え今帰宅しようとしている。やはり占いは当たらないなと心の中で呟きながら、校門をでようとすると美穂がいた。登校時とは違い何故か緊張しているように見える。

「どうした。」

「いや、あのちよつと用があつて・・・」

なんだか神妙な面持ちで俺の隣についてくる。美穂らしくないが・・・

「あの、用つてのは渡したいものがあつて・・・」
そう言っつて、俺に一枚の紙を渡した。見てみると

三ホ占い

この手紙を見ているあなたの今日の運勢はバツグンです。
ラッキーアイテムはあなたの目の前の人

こう書かれている。俺の目の前の人っていうのは・・・美穂？

「これはいつたい・・・」

「聞いて、私・・・美穂はあなたの「友達」じゃなくてあなたの「恋人」になりたい・・・

「へ？」

あまりに突然のことにまぬけな声が出てしまった。俺の脳内には朝の占いが流れていた。

「大切な友達を失う・・・」

こうして、俺は「かけがえのない大切な友達」を失った・・・

そして、「かけがえのない恋人」を手に入れた・・・

(後書き)

初めて書いた小説なんで寛大な心でよんでもらえると嬉しいです
^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4718i/>

I believe

2010年10月15日19時12分発行